

スタンプ板の利用により獣種判別のための 足跡を簡易に採取できる（大熊町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 スタンプ板による加害獣種の特定手法の実証（大熊町）

担当者 小野 司

I 新技術の解説

1 要旨

営農再開時には、獣類による農作物への被害が懸念されるため、加害獣種を特定し対策を講じることが必要である。スタンプ板の利用により、多様な獣種の足跡を簡易に安価に採取でき、加害獣種に応じた被害対策が可能になる。

- (1) スタンプ板は、ホームセンター等で市販されている黒セルスポンジ(30cm 四方、約 260 円)をベニヤ板 (30cm×90cm、約 700 円) の中央に固定し、両側に炭酸カルシウム (粉末) を薄く敷設する (図 1)。
- (2) 農作物被害が懸念される 6 獣種の足跡が確認された (図 2)。
- (3) 獣道や畝間等の獣類が通りやすい場所に設置すると効果的である。
- (4) 湿り気のある土壌では、炭酸カルシウムがなくとも足跡の採取が可能である。

2 期待される効果

- (1) 鳥獣被害対策担当者や農業者が加害獣種を判別できることから、獣種に応じた効果的な対策が可能になる。

3 活用上の留意点

- (1) 複数獣種の足跡が 1 枚のスタンプ板に残る場合や、足跡同士が重なる場合が多いため、判別時には注意して確認する (図 3)。
- (2) 雨天時には、スタンプ板上の足跡が不明瞭となりやすい。
- (3) 黒セルスポンジが折れ曲がると、足跡が残りにくいため、ベニヤ板にしっかり貼りつける。
- (4) イノシシ出没の際にスタンプ板が壊される事例が多く見られるため、L 字杭等でベニヤ板を固定する。
- (5) 検出範囲は非常に狭いため、出没頻度や生息数等の調査には利用できない。

II 具体的データ等

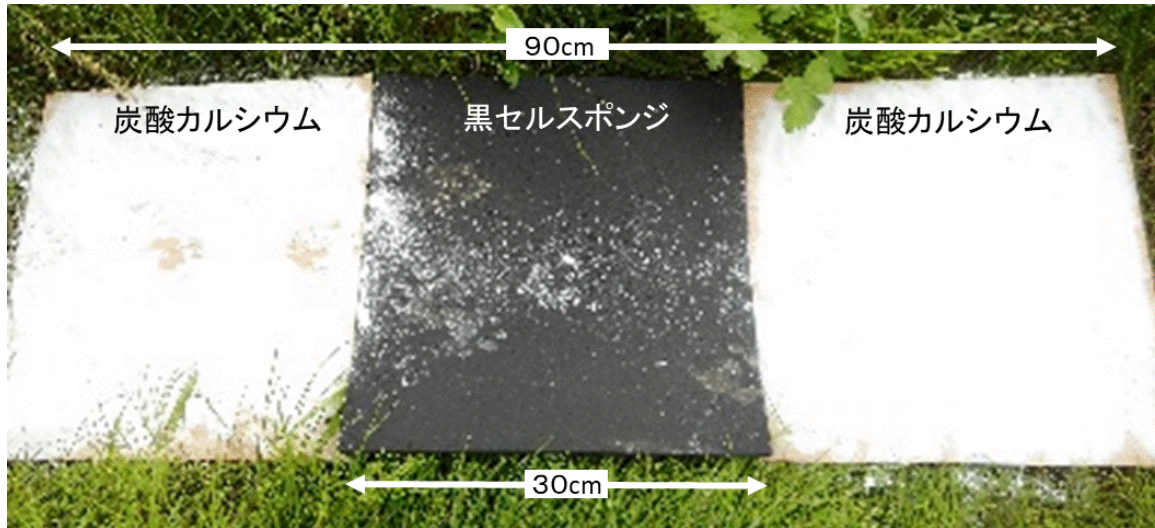


図1 スタンプ板の設置方法

獣種	イノシシ	アライグマ	タヌキ
足跡			
特徴	<p>半月状のひづめと副蹄があるが、副蹄は足跡に残らない場合もある</p>	<p>指の付け根まで指の形がはっきりわかる</p>	<p>親指は地面に届かないため4本の指跡が残る</p>
獣種	ハクビシン	アナグマ	ネズミ
足跡			
特徴	<p>タヌキと似ているがハクビシンは5本の指跡が残る</p>	<p>ハクビシンと似ているが爪跡まで残りやすく、爪と指が長い</p>	<p>足跡の間にしっぽの跡も残ることがある</p>

図2 スタンプ板で採取した6獣種の足跡とその特徴



図3 スタンプ板に残された複数の足跡（タヌキとハクビシン）

III その他

1 執筆者

小野 司

2 実施期間

令和元年度

3 主な参考文献・資料

「スタンプ板による中型食肉類調査への有効性」、岩下ら、東京農大農学集報、59(3),209-217(2014)